



学校だより



小川小学校 ○ 考える子 ○ 優しい子 ○ 元気な子

令和3年11月10日 No.24

《「もったいない」について》

11月2日、放送による校長からのお話と11月の生活目標を児童が伝えてくれました。その内容をお伝えします。

おはようございます。朝や夜が「寒い」と感じる季節になりました。油断して風邪をひかないように気をつけましょう。鼻水や咳がひどい場合は無理をしないでください。

さて、日本語に「もったいない」という言葉があります。例えば、図工の時間に色画用紙を切り取って少しだけ使った後、残りをどうしていますか。まだ多く使えるのに捨ててしまうのは「もったいない」ですね。クラスにリサイクルの箱のような物があって、少しだけ必要な時はその箱から探して使うようにして使えると良いですね。そうすれば、色画用紙を無駄なく使うことができます。

また、まだきれいな上履きなのに、足が大きくなって履けなくなったから捨ててしまうのは「もったいない」ので、忘れた人への貸し出し用に学校へ寄付してほしいと思います。体育着も妹や弟がいないお家の人は、着られなくなったら学校へ寄付してほしいと思います。

しかし、「もったいない」という言葉は、物を大事にすることだけに使われるだけではありません。やればできることを簡単にあきらめてしまうのは「もったいない」ことです。また、今やればできることを先延ばしにしてしまうのは「もったいない」ことです。みなさんが持っている能力、そして大切な時間を十分に生かせないような時にも「もったいない」は使われます。

この「もったいない」という言葉には、昔から物や時間を大切にし、自然に感謝しながら豊かに暮らしてきた日本人の心や生き方が表れています。

みなさんは「もったいない」という言葉をどんな時に使いますか。「もったいない」という言葉は、日本で生まれた素晴らしい言葉なのに、最近は、昔ほど「もったいない」という言葉を使わなくなったように感じます。

私たちの周りには食べ物もたくさんあります。そして、物もたくさんあります。給食の食べ残しが毎日大量のゴミになっていることや、名前のない落とし物が毎年大量に捨てられていることも、とても「もったいない」ことです。また、お家の人が買ってくれた消しゴムを切ったりする人はいませんよね。

今、地球の環境を守るために、日本の「もったいない」という言葉が世界で通用する言葉になっています。地球の空気や水を汚さないことや限りある資源を大事に使うためには、「もったいない」という気持ちが大切だということです。この「もったいない」が日本でも世界でも行われているのです。

「もったいない」という言葉を見直してみましょ。そして、一人一人が自分にできる「もったいない」はどんなことか考えて、行動してみましょ。今日は、「もったいない」という言葉を見直そうというお話でした。



《保護者の皆様へお願い》

よろしくお願ひします

・欠席等の場合は、欠席カード、連絡帳またはお電話で、連絡をお願ひいたします。

・電話での連絡は、午前7時50分～午前8時30分までの間にお願ひいたします。



◀「プロセス」と「結果」▶

6年生の児童が、11月の生活目標「じょうぶな体を作ろう」「進んであいさつをしよう」を放送による朝会で話してくれました。その内容を紹介します。

進んであいさつをしようで意識していることは、ただあいさつをするのではなく、相手の目を見て、されてうれしいあいさつをするように、心がけることを目標としたいです。特に朝は、みんなあまり元気がないからこそ、しっかり目標を達成できるように頑張ります。また、私はあいさつができていても、声が小さかったり、暗い雰囲気だったりするので、この目標にしました。

また、じょうぶな体をつくらうでは、朝は体がだるいことがあるので、これからは毎日起きたらラジオ体操をしたいです。朝がスッキリすると、あいさつもよい気持ちでできると思うからです。

6年1組 さん

ぼくは、進んであいさつできるように、大きな声で相手に聞こえるようにしています。

また、丈夫な体をつくるために、しっかりとご飯を食べ、走るなどのトレーニングを行っています。

6年2組 さん



私は毎朝4人以上の人にあいさつすることを心がけています。毎日毎日同じ人ではなく、先生方やクラスの友だちや地域の人にもあいさつをしています。あいさつは大切、あいさつは基本だと分かっているのに、自分からすることは私にとって勇気が必要です。だけど6年生として、はずかしくないように、元気に明るくあいさつしたいです。今は4人だけど、もっともっと増やして、今月だけでなく毎月意識していきたいです。

じょうぶな体をつくらうでは、持久走大会にむけてがんばります。本当は走ることは苦手で、私にとってこの時期はきらいです。でも「精一杯取り組んだ」と持久走大会が終わった後に満足できるように取り組みたいです。

6年2組 さん



イチロー選手が現役を引退する理由の一つは、選手としてチームの勝利に貢献するといった、よい「結果」を思うように出せなくなったことがあげられます。プロスポーツの世界は、よい「結果」を出すことが最重要であり、それが伴わないと、たとえ名選手でも引退などにつながる、とても厳しい世界です。

ところで、子どもたちにとって、よい「結果」を出すことが一番大切なのでしょうか。

学習活動などに取り組むとき、ほとんどの場合、子どもたちは、「目標」「努力」「結果」というプロセスを踏みます。しかし「目標」を立て、それを実現しようと一生懸命に「努力」したとしても、必ずしもよい「結果」が出るとは限りません。

よい「結果」を出すことは大切です。しかし、もっと大切なのは、「目標」「努力」「結果」という「プロセス（目標を立て、努力することの一連の流れ）」において、精一杯に立ち向かい、取り組んでいくことが大切だと考えます。このことが、人としての大きな成長につながると思います。

冒頭で紹介したイチロー選手も次のような言葉を残しています。

（よい）「結果」を出せないと、この（野球の）世界では生きていけません。
（しかし）「プロセス」は、野球選手としてではなく、人間をつくるために必要です。

【（ ）〈カッコ〉は校長が記入しました。】

11月26日（金）に持久走大会が予定されています。今月の生活目標で代表の児童が放送で話した「『精一杯取り組んだ』と持久走大会が終わった後に満足できるように取り組みたい」。この言葉のとおり、「プロセス」において、ひたむきに取り組んだことに大きな価値があり、それが子どもたちの成長につながっていると考えます。

改めまして保護者の皆様には、子どもたちの背中をそっと押していただくようお願いします。